共通協議主題（概要）

共通協議主題	（協議の視点②）
「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえ，幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について	「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論をもとに作成予定の架け橋期のカリキュラムと教育方法の手引き（仮案）や参考資料等を踏まえ，子供の発達や学びの連続性を確保するため，各園や学校としてこれから何に取り組んでいく必要があるのか。

1　提案の概要

（1）【広島市立山本幼稚園の提案】

①研究主題

豊かな実体験を通して，自ら考え行動しようとする幼児の育成

～幼児理解に基づいた教師の援助について～（1年次）

②提案の概要

幼稚園では「幼児期にふさわしい生活」を展開していく中で，一人一人の子供や園全体の実態を把握し，理解を深め，実態に応じた援助を行うことが大切である。そして，そのことが小学校への円滑な接続につながると考え取組を重ねている。

令和2年度から広島市立幼稚園教育研究会の「幼保小連携教育研究推進部会」に所属し，他4園と共に研究を推進している。その中で「幼児の姿見取りシート」を作成し，子供の姿を見取ったエピソード記録から，遊びの中の学びや教師の援助，環境構成等を記入し，それを教師間で共有し，幼児理解を深め，教師の資質向上を図っている。また，年間を通して「園へ行こう週間」を実施し，多くの小学校教諭に様々な時期の子供の姿を見てもらえるように工夫している。その中で「幼児の姿見取りシート」を活用し，相互理解を進めている。継続して取り組めるシートの形式の工夫，具体的に分かりやすく伝える方法を今後も探っていく。

小学校との連携では,「幼保小連携推進委員会」を各小学校区に設置し，幼小合同研修会を通して事例を用いた実践発表と協議，また，園で行っている手遊びの実技研修，ゲストティーチャー授業（幼稚園，保育所の前年度5歳児担任による，1年生に向けた手遊びや歌，絵本の読み聞かせ等）の実施をしている。出前授業（小学校養護教諭による歯磨き指導等），おでかけ授業（音楽専科の教諭による授業体験等），小学校の施設利用（図書室での読書等）なども行っている。子供が安心でき，互いの教諭が幼児・児童の実態を把握し，発達の流れを理解することで，互いの教育に活かせるものになるように取り組んでいる。今後も園・学校全体として組織的に取り組み，日常的な交流の幅を広げ，幼児・児童の安心につなげると共に，相互理解，実態把握，発達の理解を重ねていき，互いの教育に活かせるものにしていく。また，オンライン交流など ICT を活用し，連携している小学校以外の子供や保護者に情報発信することで，安心感をもつことができるよう取り組んでいきたい。

（2）【学校法人三光学園千鶴幼稚園】

①　研究主題

遊びや生活を通した育ちと学びを繋ぐために，今私たちができること
～主体性を育むための育ちの共通理解を目指して～

②提案の概要

子供たちの「育ちや学び」を小学校へ伝えていくことが，幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進に繋がると考えている。だが，日々，コロナ禍で多様な対応に追われ，連携・接続に目を向ける余裕がなく，小学校の先生や児童と直接会い交流する機会が激減し，思うように連携・接続を進めることができていなかった。このような背景や現状を踏まえ，園側が「育てたい」と思う育ちや小学校の先生が「知りたい」と思う育ちはどのようなことか，園と小学校で子供たちの「育ちや学び」を共通理解し深めていくためにはどのような方法があるかを探っている。

園内では全職員で，過去の幼小連携を振り返り，どのような取組が連携に繋がるのか，どんな姿を小学校に伝えたいのかを協議した。まずは，園内で共通理解することが大切であると改めて気付いた。また，園全体で話し合うことで様々なアイデアや工夫が出てきたことから，今後も「できる方法」を探り連携を継続していきたいと考えている。

小学校との連携では，福山市幼保小連携教育合同研修会に参加し，近隣の御幸小学校と千田小学校と連携を取り，子供の姿や目的の共有，カリキュラムの現状把握や今後の連携などの計画の立案を行った。また，行事等の案内や，年長児の近況や「遊びの記録」を送付することで，遊びの中の子供の育ちや教師がどのような援助や工夫を行っているのかを共有する機会になるようにしている。今後は園児と小学生の交流の場を設けられるように連携を進めていき，より子供が安心して就学への期待感を持つことができるようにしていきたい。

（３）【幼保連携型認定こども園ふたば】

①研究主題

自然体験活動の中で育まれる育ちの芽生え
～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点に～

②提案の概要

園の周りには自然がたくさんあり，豊かな体験の中で子供たちは多くの学びを自ら得ており それが本園の強みであると考える。そのため，これらの体験の中で育まれた子供たちの育ちを，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点に再確認し，小学校へ伝えることで，子供たちの育ちや学びをつなげることができると考え実践している。

自然体験活動を積極的に取り入れ，その中で子供に育まれる力や感性などの子供の育ちや姿を，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にグループピングすることで，職員間で幼児理解を深め共通理解できるように取り組んでいる。そうすることで，１つの遊びの中でも様々な要素が混じり合い，総合的に学んでいく姿を確認することができた。これからも，他の遊びにおいても育ちや姿を確認していく。また，幼児理解を園全体で共有することが小学校の連携にも役立っている。

保育教諭との信頼関係の中で，子供たちは一人一人安心感や自信を持つことができ，そのことが小学校へ不安なく入学することにつながっている。子供たちの良いところ，持っている力を園内や小学校で共有し，より子供たちの安心感や自信につながるようにしていく。

2　質疑応答

○　広島市山本幼稚園のゲストティーチャー事業の取組がおもしろいと感じた。それを行うことで子供の姿や教師の考え方などにどのような変化が見られたか。

・ゲストティーチャーを入学式から２週間ぐらいの時に行った。そうすることで「幼稚園の先生だ」「この手遊び知ってる」など安心した表情や雰囲気が感じられた。教師は小学校の教諭がどのように言葉をかけ，授業を進めているのかを知ることができ勉強になった。

3　協議の内容（グループ協議，全体共有）

（１）全体共有

・　スタートカリキュラムにおいて，45 分間の授業を分けて短時間で行ったり，園で落ち着いて過ごせるように取り組まれていたことを引き継いだりして，小学校でも安心して過ごせるようにしている。

・　小学校という新しい環境になった時に，自分から興味をもったり，困難なことがあっても園の生活を思い出し立ち向かっていったりするなど，できるだけ自信をつけられるような経験，体験が大切である。それを行うためには保育を可視化できるように「幼児の姿見取りシート」のような記録をとり，職員間で連携を取ったり，記録を見返して，新しい気付きを得たりしながら，満遍なく経験や体験ができるように保育を進めていく必要がある。

・　小学校での子供の姿を幼稚園，保育所の先生と共有する場をもつことで，一年生の実態から育ちを振り返り，さらにどのような援助が必要か，気付き，意識できるようにしている。

・　小学校との連携や交流をコロナ禍でできていない現状がある。だが，「やりたい」と言うばかりではなく，まずは園内でできる事を取り組んでいく。例えば異年齢交流を接続の視点と捉えて行うなどの方法がある。そうすることで，園全体の保育の質の向上にもつながる。

（２）指導助言

今回の提案ではいろいろな角度から子供の姿を見取られていた。いつの時期においても，子供の姿をどのように見取るかは重要なテーマである。子供の姿を見取る方法はたくさんあるが，総合的で日々刻々と変わる子供の姿を見取ることは，とても大変なことであり，テスト等で見取ることは難しい。そのような時には，様々な子供の姿をいくつかの観点で想定して記述し，今はどの姿なのかを捉えていくことで，より複雑で多様な動きのある姿を見取ることができる。そして見取るだけで終わらせるのではなく，見取ったことに基づいて環境の再構成や，援助など次のアクションが，子供の成長へとつながっていく。

4　結論

○　子供の発達や学びの連続性を確保するため，推進体制と取組のマネジメントが重要である。その時に応じた取組にしていくため，継続して取り組む必要がある。

○　連携・接続は，子供の視点で実践を積み重ねたり，様々な形式で記録を取ったりしながら，それらの取組を小学校側と交流し，地域の実態に合わせ発展させていくことが重要である。